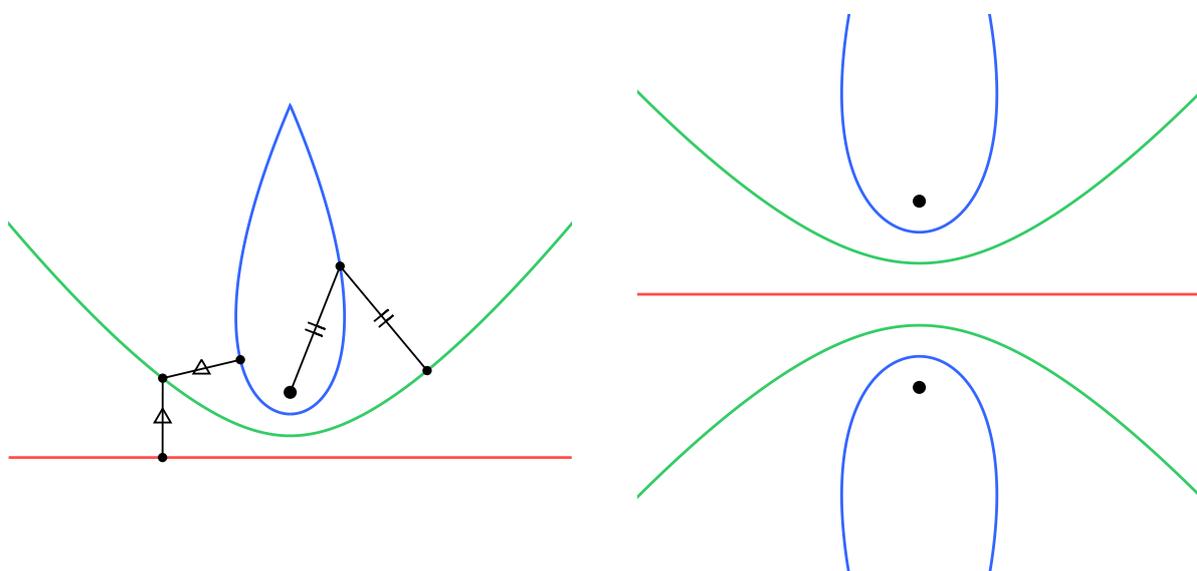


TECUM 数理教育セミナー

セミナー講演資料

研究機関誌『数理教育のロゴスとプラクシス 2021年8月号』



【左】点 p と直線 l の 3 等分線 : $C_0(=p), C_1, C_2, C_3(=l)$

【右】2 点 p, q の 6 等分線 : $C_0(=p), C_1, C_2, C_3, C_4, C_5, C_6(=q)$

ここで、各 i について、 C_i は C_{i-1} と C_{i+1} から等距離にある点の軌跡

Special Thanks to Keiko Imai for her nice picture!

TECUM 機関誌委員会編

2021年8月9日

2021年度第2回定期研究会に寄せて

2021年8月9日
特定非営利活動法人 TECUM
理事長 長岡 亮介

はじめは、ここに紹介するにはふさわしくない話題ですが、先月初旬に私が住んでいる東京都では、都議会議員選挙がありました。これまでは、どんなに気に入らない候補でも、とにかく、自分が一票をいれるとしたらこの人以外はない、という消極的な選び方ではありましたが、私は、選挙にはほとんど欠かさず行っておりました。

しかし、今度という今度は、あまりに貧弱な小選挙区候補者の広報を見て落胆しつつ選挙を忘れてしまったというのが本当のところではあります。

「個性的」な「政策」を掲げる候補者もいましたが、それ自身には大賛成といいたくても、成熟した思索の裏付けをもった政策とは思えない局所的な主張であったり、他の意味不明な主張との混在があったり、到底支持できるものではありませんでした。

他方、新しい政党も含め既成政党の候補者たちの「政策」は八方美人的な意味で安全な人気取りに過ぎず、小学校の生徒会委員の選挙を見るような印象を受けました。その中であって、オリンピック中止のような有権者の賛否の分かれる明確な主張が、唯一、日本共産党からしか出ていない東京都議選全体の政治的貧困状況にもショックを受けました。そして残念なことにその政党も主要政策は所詮、ポピュリズムの域を脱していませんでした。

ポピュリズムといえば、高校、大学の「学費無償化」を唱える政治家たちの主張は、「教科数学を高校必修から外せ」という文科省元高官の最近の発言（これ自身はかなり昔から出ていたこと）と合わせ、《高学歴》の《大衆》化という、形容矛盾のようなわが国の高等教育の悲惨な実態に悪乗りした、無定見で露骨な大衆迎合であります。人気取りだけで権威・権力を握ろうとする野卑な野心家の登場は、フランス革命後の混乱した政治状況を彷彿とさせるほどでした。

与党が伸び悩んだことは、「案外、都民もしっかりしている」のかも知れないと思う反面、投票率の記録的な低迷は、無党派層と括られる、「ふつうの人々」が、コロナ禍で社会的距離を強制されるという沈鬱な経験を通じて、一時期いわれていた社会変革の夢を失った政治的無関心 political apathy から、さらに一步、人間的な活動への意欲を欠いた社会的無関心 social apathy へと進行したのではないかと心配したりもしました。しかし、あまりに貧相な候補者の美辞麗句には、投票率が上がらないこと自身は自然であると言わざるを得ません。

このような政治的な対立軸が不鮮明になっていることの主たる原因は、突然襲って来た世界的、歴史的な大危機の中であって、オリンピック開催というつまらない「夢」を捨てられず、大胆な方針を提起することのリスクを恐れて口では「模範生」的な、実は腰の定まっていない政治的な「決断」を繰り返しながら国家的

な財政の悪化で打つ手をますます減らしている無能で無責任な政府、与野党にあります。そのような政治家を顔色を伺うばかりで独立した政策的な情報発信能力を減少させた行政やジャーナリズムも責任から自由ではありえないでしょう。

思い出すのは、戦後、いわゆる敗戦の混乱期を抜けて官民あげての復興活動が盛んになると、産業界では、「理工系」の人材不足が表面化して、その採用枠が急拡大し、結果として給与が低い教師の為り手が理工系で急速に減り、「デモシカ教師」が大量に採用される時代がありました。そして、彼らが、というよりは、彼らを叱咤激励することなく、むしろ反対に「教師＝労働者論」で實際上、若手教師の知識人としての無能さを庇い、賃金の向上のような受けの良い言葉で「戦う仲間」を増やすことを一義的に考えた当時の教員組合の指導者たちの、歴史と思想の貧困によって、今日の教育の困難が現出したように思います。大袈裟に言えば、そのときから、教師が自ら「聖職」を投げ出し、「労働者」になってしまったからです。

この間の教職員組合の「政治主義」が、右翼政治家に牛耳られた文部行政を、戦う相手としてあまりにふがいない「敵」としてまつりあげ、それとの間に不毛な「戦い」が長く続き、それが文字通り不毛な終戦（組合の実質的な消滅と各都道府県教育委員会の独立性の喪失）を迎えたのはごく最近の話です。

そんなことを思うと、かつての「デモシカ教師」の登場の歴史に、今日でも、今は重い痛みが胃を刺すような気がします。

そんな教師に習って育った人間が責任感をもった政治家、官僚になるはずもないでしょう。

まさに、「デモシカ都議会議員」の排出で、今度は地方行政が、税収の悪化、社会補償費の増大に加え、戦いの戦線を切り開く英知、すなわち、思慮深い知性と勇気ある決断の喪失で、一層の低迷期を迎えるのでしょうか。

しかし、どこまで落ちてでも、都議会は、どうせ大したことはできないでしょうから、デモシカ議員はおいておいてデモシカ教師が残した悪弊をきっぱりと清算することは必須だと思います。

TECUMにとって、やるべきことがますます重大になるようで、大いなる哀しみのを大いなる励みに繋げて行きましょう。私達には権力も権威もなくとも、普遍性を希求してやまない数学的精神と数学に出会ったときに見せる子ども達の明るい笑顔という力強い味方がついているのですから。そして、若者が未来を変革する意思と力をもった一人前の大人へと成長するのを手助けするのに、数学ほど適した科目はなかなかありませんし。

目次

巻頭言：2021 年度第 2 回 定期研究会に寄せて（長岡 亮介）	1
第 I 部 《大学入学共通テスト》を見て	5
大学入学共通テストに関して（松並 奏史）	7
「共通テスト」を見て — 「なぜ膨大な努力が数学教育に有益とならないのか」という逆説に対するアプローチ （長岡 亮介）	7
大学入試センター試験・共通テストにおける数学 I・A 「データの分析」の変遷について（及川 久遠）	17
第一回大学入学共通テストについて（松野 智博）	23
第 II 部 寄稿	25
ニューラルネットの基礎数理：高校数学の観点から（石渡 通徳）	27
光の弾性波理論（平尾 淳一）	45
第 III 部 論稿	53
どういう方程式なら解けるのか？ — Lagrange の分解式からわかる一例（松並 奏史）	57
松並奏史氏の論考についての査読委員会報告	62
第 V 部 Q and A	65